

がんばる
ゆくはし人 （94）
特別編

九十九伸一 つくも しんいち さん

行橋市出身の画家で、現在ス
ペインを中心に世界で活躍して
いる九十九伸一さん。
大学院を卒業後イタリアのミ
ラノへ渡ったのは、1980年、
25歳の時でした。
当初一年間のつもりだった欧
州生活が、なんと半年で資金難
に。苦心の末、ミラノの老舗画
廊へ作品を持ち込んでみると、
才能を高く評価され、個展を開
くことに。ロングランを続けま
した。

以後、82年イタリアのミラノ

のトリエンナーレで開かれた日
本芸術祭ではイタリア在住作家
15人展に最年少で出品。84年
には、メキシコで招待個展を開き、
その縁あつて版画家 Sema
Raymundoを行橋へ招きました。
（Semaが残した版画は、現在も市役
所庁舎内に飾られています）

スペイン国際現代美術展への
出展や、カタロニア・ロマネス
ク教会千周年記念祭での唯一カ
タロニア人以外からの出品、ス
ペイン彫刻の巨匠チリダと親交
を持つなど、その活動は多岐に
わたります。



九十九伸一（つくも しんいち）55年行橋市生まれ

80年九州産業大学芸術学部大学院を卒業後ミラノへ渡欧

83年イタリア在住作家15人展に招待出品

86年バルセロナ（スペイン）ヘアトリエを移す

01年スペイン国際現代美術展では、スペイン国王が興味を
示した芸術家10人の中の一に選ばれる。



行橋カトリック教会の山元真神父と
一緒に完成を喜ぶ。「教会は皆さんの
ために開放しています。信者でなくて
もご自由にお入りください（山元）」

行橋がもっと身近に文化を感じ
られる環境になつてほしい

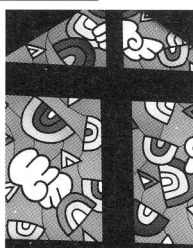
そのためには、文化の先駆者
がもっと頑張つて環境を整え
ていかなければなりません。
芸術は、装飾や飾りではな
く、希望や楽しみを与えるこ
とができる、意義あるものだ
のですから。」
いま、ひとつの文化の種が
行橋に蒔かれました。

今年創立50年を迎える行橋
カトリック教会のために、昨
年からボランティアで壁画を
作成。今回の帰国で完成し、
ステンドグラスも合わせ一つ
の空間が出来上がりました。
九十九さんは、キリスト教
徒ではありません。だからこ
そ、この作品に意味があると
言っています。
「文化は特別なところで作られ
るものではなく、大変身近に
あるものです。それは文化意
識と呼ばれ、環境が整ってい
れば、子ども達の中にも自然
に育つもの。美術館などのハ
ード面ではなく、人材を育て
るといったソフト面に力を入
れ、もっと文化を身近に感じ
られる街になつてほしい。」

体験できる九十九作品 このほか博多マリパレインや日田ビール工場など全国に



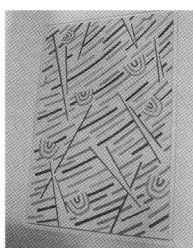
コスメイト行橋
「無題」ボスニア内乱時
3つの民族の対立を表現



ステンドグラス
「天使の時空」



「ロンダニーニの
ピエタ」



「聖霊降臨」モチーフ
のUは、uno（はじめ）や
universalの意味が